

# 大河再発見

前編



「水の郷さわら」(後方)からカヤックに乗って出発する三好さん

古くから「坂東太郎」と呼ばれ、関東平野全体に広がる日本一の流域面積を持つ利根川。豊かな大河の流れは、関東の水がめとして私たちの暮らしを支える一方で、時に洪水の牙をむき、自然の猛威を振るうこともありました。水門、送水や排水を行うポンプ場、こうした河川施設には、川を治め、守り、育てる人々の営みが刻まれています。国際ラリーストとして「パリ・ダカール」など海外ラリーで活躍しているアウトドア派エッセイスト、三好礼子さんに利根川下流の河川施設をカヤックに乗って水上からレポートしてもらいました。

## 川を治め、守り、育てる

### 「力強く美しい」河川の施設群

「水の郷さわら」から川の歴史と文化を体験

ルポの出発点は千葉県県香取市・佐原に今年3月オープンした広域交流拠点「水の郷さわら」。まわりのマコモでつくられた重さ約700kgの巨大なコイの山車「ハンマ」が目玉の館内は、地元伝統が息づいています。普段は「川の駅」「道の駅」として特産品や古里の味を堪能しますが、洪水時は防災拠点として機能する設備を備え、利根川の治水の記録や床一面にはられたハザードマップなど防災教育展示コーナーを開設しています。



巨大コイの前で支配人の齋藤清さんに話を聞いた

### 「地元産」巨大コイがお出迎え 重要文化財 歴史実感! 横利根閘門



横利根閘門(こうもん)の赤レンガを眺める

約2km離れた「横利根閘門(こうもん)」で、茨城県稲敷市の横利根川との合流地点に位置するこの閘門が、くられたのは大正10年。利根川の洪水が横利根川に逆流するのを防ぎつつ、船を通行させる役割を持っていました。明治、大正期につくられ、現在も活躍している数少ない施設の一つで、れんが造りの閘門の到達点を示す近代化施設として2000年に重要文化財に指定されました。04年に完成した近形での復元改築されましたが、門扉の鉄(びょう)打ちなど、昔ながらの技(わざ)を受け継いだ



両総水門。左の水門が両総用水、右が大須賀川につながる



### 舟運

利根川舟運の重要な拠点

昨年からは今年にかけて、5つの船着場が利根川下流域に新たに誕生しました。神崎町にある「神崎の船着場」もその一つ。昔の渡船場とほぼ同じ位置につくられました。船の上り下りしができるスロープがあるのが大きな特徴です。利根川は、徳川家康の時代に水上交通網が整備され、江戸の交易や東国三社詣での旅人たちが利用する舟運航路としてにぎわいました。下流域の市町村による「利根川舟運・地域づくり協議会」は、こうした船着場を利用して舟運の復活と地域活性化に取り組んでいます。

### 治水事業

#### 排水機場 水害を未然に防止

排水機場は、洪水が支川に逆流するのを防ぐため水門を閉鎖した時、行き場のなくなった支川の水を強制的に排出する役割を持っています。利根川には33の排水機場が整備されており、支洪水時の氾濫(はんらん)を防ぎ、水害から私たちの暮らしを守る役割を果たしています。

### 国土交通省関東地方整備局 利根川下流河川事務所

☎0478-52-6366 <http://www.ktr.mlit.go.jp/tonege>

Essay エッセー

リポーター 三好 礼子さん

利根川に浮かんでみれば、瀬の音が近づくと緊張と期待が高まるものだが、ここは違う。大雨のあつたから、そこは大河の「大きな杓子(しやく)」。カヤックが揺れ、舟に揺れるほど、舟と流れるほど、舟はちよつと戸惑った。今、まで下った川は、勢いよく下流に向かって流

### 「川オタク」が利根川を作っている

半分を占める空の雲を眺め、川面を流る風、未来を思ったり過去を指間見たり。陸では見えないものが感じられる。さまざまな発見もある。昔の人はもつと多面体で物事を考えていた。「なまじり」も、もちろん自然は圧倒的な存在であり、齋

川面は意外と風が強く、秋雨前線の影響で降り続けた長雨で水位は普段より約1.5m上がっていました。久々の晴れ間に、さくら利根川の川面を三好さんのカヤックが走ります。体長約1.5mもある魚のハ

「水門」 九十九里に水を供給

職人を探すのに大変苦労したそうです。カヤックから手を伸ばし、門扉と赤いれんがにじかに触れた三好さん。「当時の技術と歴史の重さが伝わってきました」

「導水」 人と自然を守り支える

揚排水機場には、利根川流域の暮らしを守り、生活を支える大切な役割があります。印西市にある「北千葉揚排水機場」は、①手賀

「水門」 九十九里に水を供給

職人を探すのに大変苦労したそうです。カヤックから手を伸ばし、門扉と赤いれんがにじかに触れた三好さん。「当時の技術と歴史の重さが伝わってきました」

「導水」 人と自然を守り支える

揚排水機場には、利根川流域の暮らしを守り、生活を支える大切な役割があります。印西市にある「北千葉揚排水機場」は、①手賀

「導水」 人と自然を守り支える

手賀沼へさらに江戸川へ

手賀沼へさらに江戸川へ

手賀沼へさらに江戸川へ

手賀沼へさらに江戸川へ

手賀沼へさらに江戸川へ

### Present

#### 手賀沼の手すきはがきを10名様に

三好さんのサイン入り!

我孫子市にある千葉県手賀沼水防広場では「ヨシ」を使った紙すき教室が9月25日に開かれました。ますます手賀沼の岸辺に生えるヨシの刈り取りからスタート。細かく刻んで使用済み牛乳パックと混ぜ合わせ、はがきとして再生しました。出来上がったはがきを持つ子供たちを前に、所長の佐藤登喜彦さんが「水害が生えている環境は水質浄化の役割も持っています。ヨシなごを使って、より水環境への関心を持つてほしい」と語りました。

### 利根川下流の

#### 最新防災ステーション 災害時の備蓄も十分

千葉県香取市の国道356号沿いにある佐原広域交流拠点「水の郷さわら」は、「川の駅」と「道の駅」が一体となり、防災機能を備えた観光施設としてオープンしました。香取市の佐原中心市街地活性化の一環として、国土交通省、千葉県、香取市が施設整備を行い、民間の力を活用することによって、コスト削減と質の高い公共サービスを提供するPFI(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)事業として運営されています。

### 募 集 要 項

はがきに、住所、氏名、年齢、職業と「ふるさと大河再発見」を添えて感想をお書きください。あて先は〒113-0022東京都文京区千駄木3-36-11 日本工業経済新聞社「大河再発見」係です。

抽選で10名に手賀沼のヨシを材料とした手すきはがきに、三好礼子さんのサインを書いたものをお送りします。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

●個人情報について 個人情報保護法を遵守します。

後編は11月8日付(予定)に掲載されます

広告